

# 第3期第10回帯広市産業振興会議 議事録

日時：平成26年10月21日17:00～

会場：帯広市役所10階第5A会議室

## I. 開会

## II. 市長挨拶

### ■帯広市長

- ・委員の皆さんの熱意のある議論に感謝している。
- ・中小企業の活性化とは、つまりは個々の企業が元気になることの積み重ねであり、まちづくりにとって必要不可欠なこと。
- ・これまでの議論を踏まえ産業振興ビジョンの見直しを行ない、今後も中小企業振興を進めていきたい。
- ・繰り返すがまずはそれぞれの企業に経営をしっかりやってもらうことが何よりも大事である。
- ・その上で、産業振興会議を中心に、行政と関係機関が連携してトータルとしての中小企業の活動をサポートしていきたい。

## III. 会長挨拶

### ■佐藤会長

- ・本日は市長に出席いただき、検討内容の確認、市長との意見交換、意見のすり合わせにより、産業振興とまちづくりに対する思いを共有していきたい。
- ・率直な意見交換にご協力をいただきたい。

## IV. 協議

### 1. 「産業振興の考え方」について

#### ■佐藤会長

- ・雇用の拡大、雇用の確保がビジョン全体にかかる大きな問題になっている。
- ・現行のビジョンにおいても、「地域産業は、雇用の確保・拡大を通して市民生活の安定をもたらすとともに、地域産業を支える基盤として重要な役割を担っています。」と記載されている。
- ・消滅可能性自治体というニュースがあったが、雇用の確保は産業の振興のみならず、まちづくりという観点からも重要なテーマ。
- ・まずはじめに、人口減少社会と産業振興における雇用問題という観点から、市長のお考えをお聞きしたい。

## ■市長

- ・地方の自治体に対し、人口の減少という問題から消滅可能性という言葉が使われるようになった。
- ・自治体が消滅するというのは、住民が色々な不安をもって町から離れていくということ。仕事や病気、災害などという面である程度納得できる町であれば、そういうところから人はいなくならないのではないか。
- ・帯広に住む人にとって、納得を持って住んでもらうために、フードバレーとかちをすすめてきている。まずは食べられないとダメなので産業振興を進めてきた。
- ・産業は生産活動で価値を提供し、お金をもらいまわしていくこと。今ある基本価値を見直し、更に付加価値をつけて納得してもらい対価をもらう。
- ・価値を見出せないものを続けても駄目。最終的には無料になってしまう。
- ・強いところから進めなければいけない。十勝で強いものは地域産業である農業。
- ・十勝みんなで進めるのは資源が大きいから。今後大きい病院もできる。定住自立圏で消防の広域化をすすめている。
- ・十勝で仕事、防災、医療をみんなでやってきていることが消滅しないまちづくりに繋がる。その周辺に価値がある。
- ・更にエネルギーの自給自足。こういうのを皆でやらなければいけない。
- ・この地域が持っていない価値観を持つ企業に来てほしい。大企業を引っ張ってくるのが市長の役目だと思われているが、それは違う。
- ・やりたいのは人。価値を生み出すことをみんなでやらなければいけない、その結果として雇用とか事業が広がっていく。
- ・十勝の価値がどこにあるかを内外に理解してもらわなければならない。
- ・日曜日から市民と議論始めた。何をやったかという、税金が減る。市民税。それをどう盛り返すかという、法人の所得税を増やすしかない。
- ・人口を増やしても経済活動を始めるまで 20 年かかる。会社なら可能性ある。稼いでどれだけ税金払えるかが価値になる。
- ・一人で会社は複数作ることができる。日本、アジアが欲しいと思える十勝の物を民間で作って創業していく。
- ・更に、既存企業の売上げが上げるような取り組みが必要。
- ・市民と問題意識共有しなければいけない。
- ・長野県のキノコメーカーのホクトは創立 50 周年。最初の何年かは農業資材を売っていたが、キノコ生産を始めて 20 年で上場した。
- ・年間市民税は 1 億 2 千万。従業員 1400~1500、パート入れて 3000 名。
- ・20~30 年でここまで成長した会社がある。帯広でこれぐらいの会社が作れるか、マーケットがあるんじゃないかを感じる。
- ・帯広の産業構造を見直すと、結局は中小企業。急成長しろとはいわないが、創業

起業の可能性を知ってほしい。

- 個々の企業がこれから5年10年後にどれぐらいの経営をしようという目標を持ち、それを実現するために会社の組織をどうして行こうかなど、各論的に入っていく必要があると感じる。ビジョン見直しの次にそこに入って行きたい。
- 9000社の中で税金払っているのは半分。
- 自社が市民税を20万払えるだけの会社になるために、何をしなければいけないか。
- いい人材を集めたいと思った時に、自分の息子が就職するときに何を考えるか。一つは将来性。将来性は見えなければいけない。この会社では自分は5年後どの位置にいて、どのくらい給料がもらえているかがわからなければ怖い。
- 人材を育てる、欲しいとあるが、一番大事なものは、何を努力したらどういう待遇になるのかが見えるということ。社長に嫌われたらクビ、なんて会社では働けない。
- 経営者は従業員と将来の夢を共有してもらい、給与体系なども平気で外に出せるくらいになって欲しい。
- アメリカのベンチャーでは、人を採用する際に、企業の中の人事体系のシステムを公開している。自分がどういう評価を受けてどんな待遇になるかをオープンにしている。その評価に経営者が鉛筆をなめる隙はない。
- 人生かけるのだから、こういった部分がブラックボックスではいや。この企業は今後10年で何ができる会社か。雇用の中身はどうなのかの透明性が求められる。
- 帯広市に行くとそれぞれの会社の給与体系、福利厚生がものすごく透明だなど、あの地域にいて働こうかなとなる。景色がきれいなだけでは人は来ない。
- ロンドンのシティという町では、能力、仕事に値段がついており、本で公開されている。
- 十勝で仕事しようと思ったら、中小企業がものすごく開かれていて、違いはボーナスで表す。
- こういった制度を見たら人が来るのではないか。帯広ではどこに行っても一定以上のガバナンス。オーナー企業の欠点の社長を怒らせた首といったものをなくす。東京や福岡はそうなってきた。
- また、そういったシステムについて中小企業が先生になって授業やる。そうするとJターンがくる。
- 当たり前と思っているシステムがだめ。人を集めようと思ったらそこに手を入れて欲しい。中小企業だけど、十勝の中小企業は経営形態が違えば、未来がある。
- 将来の事業計画をシェアすることと、雇用に関しての透明性。
- 帯広は絶対にできる。レベル高い。どこの地域とも似たり寄ったりなマネージメ

ントが多い。どこの企業もFRINGE・ベネフィットはやっている。それを見せればいいだけ。それを枠にして見せる。

- ・こういった情報を出せない企業と出せる企業。どっちで働くか。中小企業経営の透明性を高めていくことが、帯広を超えなければいけないところ。そこに入らず人材、研修となっても先が無い。
- ・透明にするだけで変わるのではないか。人に見せることを意識すれば、曖昧さは無くなる。
- ・中小企業に人が集まらない理由は安定性、待遇という点。
- ・企業説明会に行ってもどこも同じような話。学生はどこに行けばいいかわからない。他の地域と違うことをやれば、学生はすごいなあと思うと思う。

#### ■佐藤会長

- ・今の市長の話はこれからやらなければいけない具体の部分。
- ・個別具体的な部分は皆苦労しているし、地域への定着は循環しなければ地域成り立たないから、地域全体に示そうという考えを持っている。
- ・市長ともことあるごとに意見交換できればなと感じる。

#### (委員)

- ・よく考えれば当たり前に近い話だが、それを避けて考えている部分も会った。
- ・企業の透明性も必要とは思いますが、そこを目指していくと画一的な人にならないかという心配もある。
- ・起爆剤になるような人は何かに飛び込む際に安定は考えていないと思う。
- ・他の町村でも人材、人口減少に考えをめぐらせているが、住む側の透明性をアピールするということもできれば一番リアル。難しいのかなと思う。
- ・住む人の声や、どういう仕事をしていて、いくら給料をもらっているのかなど。

#### ■市長

- ・帯広ではどういう仕事でいくらもらえるのかという発信が無い。
- ・十勝に戻ってきて、年収200万で大きい家を持てるのか、と驚きを感じることもある。
- ・十勝に住む個々の生活をもっとリアルに見せなければいけない。
- ・これぐらいの年収で、このぐらいの生活をしていると、外から見てわかるように。
- ・夢を持っている人に来てほしいが、何かやりたいと思っても回りには邪魔する人や物がいっぱいある。その時に十勝の生活など、説明できるだけで来やすくなる。
- ・夢を追いかける人に来てほしいが、ベースの部分にも色をつければ良い。

(委員)

- ・透明性は大事かも知れないが、ひとつの手段かなと思う。
- ・日本独自の経済活動もあるので、それとの両輪になる。アメリカナイズされずに日本独自のものと一緒に。
- ・教育の部分では、企業にとってどういう人材がほしいという部分では同じ。人づくりのためにも、早ければ幼稚園から大事に教育しなければいけない。
- ・地元のことを知らない人が多い。その点、環境づくりから始めないと難しい。

#### ■市長

- ・アメリカやロンドンのものを全部入れることは無い。日本流にしなければならない。
- ・文化、歴史を踏まえなければいけないが、そのバランスを考えていかなければいけない。色々環境が変化している中で、透明性は今までよりも必要。
- ・My company から Our company、上場したら Your company になる。Our company はステークホルダーがみんな幸せになるために活動する。それを実感できる部分を作っていければ。

(委員)

- ・市長の話はこれから新規事業する方にはぴたっとはまると感じた。そうすべきだし、今後そうなるというイメージがある。
- ・一方で、自分が始めた会社じゃない、もしくは歳をとって続ける気はないというような色々な人がいる中で、少しフィットしない部分もあると思う。
- ・受け継いだものに関しては「残す」という考え、自分で興したものに関しては「成功したい」という考えで、状況と環境が違う中では別の考えが必要。

#### ■市長

- ・廃業数が多いなどと聞くことがあるが、自分の代で終わろうとしている経営者にがんばれという必要は無い。
- ・ただ、後継者がいなくて困っているときには先ほど言ったロジックにはまる。
- ・事業機会や将来性を感じるから後を継ぐ、後を継ぎたいと思われるようにしなければいけないが、そうならないから後継ぎがいらない。
- ・自分が参加することで会社が維持、成長できるという確信があれば、後継者はいるはず。また、そういう企業をなくすのは勿体ない。にもかかわらず無くなっている理由は、企業の形態がブラックボックスだから。
- ・株式会社のメリットをもっと使わなければいけない。株式会社がゆえに使えるものがある。形態によって違うのは当たり前。そういう企業も必要。

(委員)

- ・世の中の価値観が変わっている。10年後はまったく違う世の中になる。事業を継承するには困難な時期がある。ブラックボックスだからというのも言えるが、根本的な業態変革も必要と感じる。
- ・不安定な時代だからこそ人は集まらない。経営者の問題もあるが、十勝としての思い切った動きが必要。
- ・全企業が透明であるとか、親が中小企業に入社してほしいと思うような体制が必要。地元の企業が何を作っている、など、十勝の魅力をもっと発信するような広報が必要。
- ・豊かな暮らしの中身、リアルな生活モデルを伝える必要があると感じる。
- ・大企業に勤めて安定するよりも、中小企業にチャレンジャーな人材が集まるような広報戦略が必要。

■市長

- ・不安定な日本で黙っているか、やるか。気概だけあってもだめ。
- ・チャレンジすれば若くても経営に参画できる、これが透明性。若いのがバンバン経営に参画しているといったような環境が、社長の思いつきではなく地域性として、地域としての気風であると発信しないといけない。
- ・十勝で何をやるかをみんなで知恵を出し合えれば。中小企業だからこそできる細やかなことがある。17万人だからできる産業などを考えてみたら、他の同規模自治体に売れるし、チャンスがある。大企業が気づく前に十勝でチャレンジしていきたい。

(委員)

- ・市長の話は興味深い。帯広畜産大学では、HPに給与が書いている。
- ・大学に若手研究者が集まるのは、給料の透明性だけでなく、うちの大学ではこんなことができるというのがあるから。
- ・中小企業の雇用条件を透明にするのは大事なこと。会社、産業分野がどうなっていくかが大事。今後成長する分野にコミットしている会社ということが大事。
- ・成長することの大前提が企業間、地域間での競争関係。緊張感がある中で、どうやって工夫していくかを考えて成長する。
- ・フードバレーとかちは面白い考えで、雛形であるオランダと違うのが、フードバレーの中で企業間の緊張があるのかな、というところ。十勝の中での仲良しこよしではなく、競争しながら成長につなげていくことも必要。
- ・十勝ならではのアドバンテージ、競争力の源があると思う。それをうまく生かす

ことが十勝、企業の成長に繋がる。ビジョンで「地域力」とあるが、地域のアドバンテージを生かした、競争力を生かした、という、ハラハラドキドキしたものができるといい。

#### ■市長

- ・言葉は手垢がつき始めている。ドキドキハラハラとお話いただいたが、私自身も以前勤めていた 60 人規模の会社では募集しても人が来なかった。そこで、この会社では何を狙っている、といった将来を話した。
- ・結局夢が必要。成長過程はハラハラドキドキするが、その後に来るのがガックリではさびしい。ビッグサクセスがある。これはお金だけではない。若者がほしい夢、将来像を提示できないといけない。
- ・加えて適度な透明性を入れ、発信力があると、人が来るかもしれない。
- ・ビジョンで言葉だけ並べても人は集まらない。

#### (委員)

- ・人材の問題、創業の問題では、事業規模、業種によって変わる。
- ・今は飲食関係に求人を出しても人がまったく来ない。こういう業種にとっては余り説得力ない。それぞれの分野に対応したやり方が必要。
- ・税金について、逆に言うと半分は儲かっていない。そこをどうするか。小規模企業の基本法だが、9 割の小規模企業をどうするかが大事なときに、それぞれの対策は必要。
- ・市長のやり方も参考にしなければいけないが、こういう話をこの場で何回もしたい。市長の意見は一つの意見として大事。論議をして、これはいいという風にしたい。みんなでやれるものは政策として発信したい。
- ・やはり市の商工観光部だけでこの問題は論議できない。いろいろな分野の問題は一つの部署ではどうしようもない。市の内部でも注目いただきたい。

#### ■市長

- ・企業ごとに色々な状況があるが、マスで考えなければいけない。
- ・安い給料でも一生懸命夢を持ってやっている若者もいる。そういう人たちの仕事をどう作るかも大事。

#### (委員)

- ・条例制定にも携わり、ビジョンの策定の際にも、ものづくり創業分野を担当した。それが 6 年たってまた見直しをしている。
- ・6 年間すごい勢いで環境は進んだ。条例ができた時には、素材だけ。小麦の製粉

工場などは無かった。

- ・市長の言われた部分がビジョンにはちょっと抜けていると思う。見直しの際に反映できればいいのでは。

#### ■市長

- ・きれいなビジョンで終わってしまうのではなく、ここからどうするかを考える。今のビジョンがダメということを行っているのではない。
- ・十勝らしさが色々出てくるが、他の地域よりもより具体性のある議論だった、というのが必要なのではないか。
- ・アメリカの元副大統領のアル・ゴアが、GDP で世の中を計ることが間違いなのでは、というコメントをしていて驚いた。十勝の企業経営者はみんな一本持っているものはこれだ、一番大事な尺度はこれだ、というのを時代に先駆けてもてれば。
- ・十勝のライフスタイルを見るとこれでいい、これを貫き通すことが十勝のバリューだといえると他と違いが出てくる。
- ・競争で勝てそうな分野とフードバレーをリンクさせて、、、
- ・帯広市の収益はこんなに変わるんだというのを共同して追いかけていくと、ここまでの減収分は企業活動やビジョンの活動でカバーできるとなると、みんなでまちづくりをしている形になる。
- ・簡単ではないことはわかっているが、十勝の産業人に Our Value があって、十勝はそれが共有されているから、十勝で働くことは他の地域で働くより良い、となれば。
- ・産業のバックグラウンドとして農業がある、エネルギーなどの循環もある。そういうのがあれば十勝で働こうとなるが、ばんえい競馬とか、地域力すごいとか、言葉で言っても伝わらない。そういうような形で外に発信することと、フードバレーとかちがリンクしていくべき。
- ・「フードバレーとかちの成功を支えたのは中小企業の活動なんだ」と将来言ってもらえるようになるとうれしい。

#### (委員)

- ・みんなの確信として大なり小なりそういう部分は持っていると思う。そんな中でみんな議論している。これからもっと具体的に鮮明な形で十勝を出す必要がある。
- ・小規模企業登録制度やリフォーム制度など、他に先駆けて帯広でやってきたものをもっと打ち出していくことが必要。
- ・十勝の企業全体として理念を持って、というのはやるべき。見直しなのでまだ具体的な部分を出していないだけ。市長言ったことはそのとおり。具体的にどうす



るところで悩んできている。そこを進める上で何が大事かを行政にも考えていただきたい。

#### ■市長

- ・いくつもの解釈ができるものではなく、みんなが理解できるものを作り上げなければいけない。将来像として、こうがんばったらこうなるというシナリオを作っていないといけない。
- ・空いた税収の穴を埋めるためにどうするか、という具体を懇談会でぶつけている。それを仮説でいいので、みんなで議論して、進めて、ちゃんとしてない、どうなっているのか、というものを考えていくと危機感が出てくる。活動というものを考えて。

#### (相談役)

- ・聞いていて2期目に無投票で入っていよいよ米沢カラーが出てきた雰囲気を感じた。そのカラーは我々にとって望んでいるようなカラーと思う。就任時に市長が話していた、「税収が増えるかどうかで僕を判断してほしい」というスタンスと変わっていない。
- ・法人税を増やすそのためには創業が必要という話はビジョンが目指すものそのもの。方向性についても色々あると思うが、生計確立型創業と事業機会獲得型創業の大きく2つのタイプがある。この考えは産業振興の方向にも盛り込まれているが、域外と域内という表現で、域内を振興していくという考えでやってきた。
- ・市長の考え方と同じで心強い。
- ・1点疑問に思ったのが同一賃金の話。監督署入ったらアウト。労働行政を含めたところでの考慮に入れてほしい。
- ・不安の無い町、まちづくりをこの会議でも話さなければならないと感じるが、都市計画とはこの会議は離れている。そことの整合性をどう取るか。創業企業への直接的な支援が一番大事なのではなく、一番大切なのは、子育てやウェルカムなまちづくり。
- ・まちづくりとのすり合わせができれば、お互い良好な帯広のまちづくりを共有しながら話していけるとおもう。

#### ■市長

- ・これから住宅政策や災害など、「wants」そこに大きな事業機会があるはず。それをどう捉えて帯広をどう育てていくか。そっちの視点がないと議論は止まる。世の中変わっている。

- ・今までは縦割りの中に産業がぶら下がってきたが、これからはそれぞれの中に産業がいる。行政のあり方もそう。行政の中でもそれが重要だということを、職員に皮膚感覚で感じさせないといけない。これは市長の仕事。

■佐藤会長

- ・核になるような話があったため、一度事務局でまとめてほしい。

2. 帯広市産業振興ビジョン見直し案（たたき台）について

（事務局）

資料1に基づき事務局より説明

（委員）

- ・事務局への質問、小規模企業の基本法について、各自治体で決めなさいとなったが、個々に今回入れるのか、別に作るのか、その方向性はどうか。

（事務局）

- ・包含しているという整理。

（委員）

- ・基本的な考え方だが、小規模事業に対する法において、中小と区分したものを作れとあるが、それをわかるようにしたほうがいいのではないか。今すぐというのは難しいとは思うが。

（事務局）

- ・基本的な方向としては大きく変わらない。できたときに中小企業憲章もできていなかった。それを入れるのかどうするかも含めて内部で議論したい。

（委員）

- ・方向性だけは入れる必要はあると思う。

（会長）

- ・最終発表まではなっていないので、役所内部で検討、素案があれば示してほしい。国とのタイムラグを一度検討してほしい。

（委員）

- ・「とかち検定」について、ビジョンだと市の方向性になってしまうが、商工会議

所とのすり合わせはしてあるのか。確認したほうがいい。

(商工会議所)

- ・整理します。

(事務局)

- ・誤解の無いようにする。

### 3. 具体的な事業化に向けた検討について

(事務局)

資料2に基づいて説明

(会長)

- ・前回の会議において、文言的な整理だけでなく、動けるものから動いて成果を出しながら具体性のあるものに取り組んでいこうという話になった。
- ・皆さんの考えを落とし込むためにこの作業を行った。
- ・具体性、実現性があるものから取り組む。色々な副作用により他のものにも影響を及ぼすと思われる。実現性、具体性が高いものに費え、皆様からご意見をいただきたい。

(委員)

- ・観光面からやっていったほうが早い、急がなければならないと感じる。困惑している観光客が見受けられるが、観光マップが小さすぎて見えないという。地図にある通りがどこかわからない。細かいことを言えばいっぱいある。観光客目線に立って直せるものは徹底的に直さなければならない。既存のものでも。本当に使えるのかという検証をするのもひとつの手。

(委員)

- ・一年後に結果を出すか、3年後に出すかでやる事業は違ってくる。人材部会にいたので、UIターンの調査は大事と思う。

(会長)

- ・どういう風にやるか

(委員)

- ・市で拾い出して可能ではないか。

(事務局)

- ・難しいという話になった。

(眞鍋)

- ・すでに表で実現性が高いものは出ている。結果は出ているのではないか。いくつ実施するのか。

(事務局)

- ・網掛けも9点あるが、すべて同時に行うのは難しいと思う。

(委員)

- ・自分の関心の高い部分で言うと、副読本の部分、もうひとつは翻訳通訳、情報発信ははずすことができない。内外両方に発信することが必要。地元の中小企業についてまるで知らないという現状を何とかしなければいけない。地元の企業を知ってもらって地元で働きたいと思ってほしい。進学校に取材に行くと都会に行つて二度と帰って来ないということを平気でいう。これを変えていかなければいけない。
- ・通訳と翻訳も欠かせない。標識で迷うことがある。外国の人も絶対に迷うだろうとを感じる。外国人に向けての効果的な情報発信はやっていく必要があると感じる。

(委員)

- ・判断難しいが、産業振興の考え方をどのように実現するかが大事に感じる。外に目を向ける。外とのつながりをうまく使うことが産業の振興に繋がるということが重要と感じる。観光客をどうやって呼び込んで楽しんでもらうかという環境整備や十勝産品をどう売るか、その人材をどうするかが大事なポイント。
- ・ホテルや二次交通、UI ターン経験者のエネルギーをうまく活躍してもらうためにはどんな支援が必要かという視点も必要。

(委員)

- ・観光と人くりにしたらよくないが、域外の人を誘導することがひとつ。関連するもので、二次交通など、バス・タクシー会社にやってもらえる取り組み。スイーツタクシーがはやっている地域もある。
- ・バス・タクシー会社がどうするかという会社全体の底上げで言えば、情報提供の元になる観光案内とかを作らなければならない。会社に認知してもらい、案内してもらおう。どれが優先というよりも必要なものをやる。
- ・域内循環というものから考えると、波及効果が多い共同利用施設について、すぐ

に具体的にできるものではないと考えていると思うが、着手はすべき。そういう観点でやったらいい。今すぐ目に見える結果を見ると実現性だが、着手しなければならぬというものは波及効果を見ればいい。

(委員)

- ・すべてに着手すべきと思っている。似たような事業をやっているものもあるので、一押ししてあげれば進むのでは。十勝観光連盟でどのように考えているのかを確認すると答えが出てくるのではないかと思う。網掛けのものはすべてやってはどうか。

(会長)

- ・一通り見た際に、色々な所属企業、団体でさらっと見ても横のネットワークなしでやるとこの数字になる。太田委員から出たように、自分の知っている団体でこんなことやっているから、てこ入れしたらこれできる、というものがあるのではないか。これに帯広市の産業振興会議の力がどの程度及ぶかわからないが、次回までに、自分の守備範囲でこういうのがあるよ、というのを出してもらい、あと半歩あればいけるよというのを一度集約したほうがいいのではないか。

(委員)

- ・表のつくり方が悪い。部会において具体的なものが出た。括り方。

(委員)

- ・グルーピングがわかりづらい。

(会長)

- ・もう一度整理して出してほしい。

## V. その他

(委員)

- ・スタートで市長がこんな考え方を持っている。そもそも論が出てきて、文字の修正をしているがそういうことではないのではないかと感じる。変わらなきゃとかわかっている部分があるが進めない。やっぱり手堅いものになったなと思われるのも癪。

(会長)

- ・急激に変われない部分もある。条例を作る際に民間と行政が、というところが特徴でやっている。先代の方々がやってきたものはこのとおりやら無ければならない。これはこれとして、ものの考え方として、こういう心尾構えをしなければいけないという点を話された。それで一度事務局でまとめてほしいといった。私としてはもう一度話してほしいと思っている。今までのビジョンは関係ないよとはならない。これが変わらない要因でもあるが。
- ・今、十勝は大きく変わっている。模索している。大きな動きが出ている。それを踏まえたうえでその動きをどこかに示さなければならない。
- ・市から発信するものはそれでいい。だが周辺町村に関する一緒にという部分をどう打ち出すかをもっと聞きたかった。今すぐではないが、どこかで考えていきたい。

(委員)

- ・会議と市長の関係を整理したほうがいい。

(事務局)

- ・次回の日程は改めて連絡。

VI. 閉会